（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2370400877		
法人名	株式会社グループホーム		
事業所名	グループホーム浄心の杜		
所在地	名古屋市西区上名古屋三丁目13番3号		
自己評価作成日	平成23年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社
所在地	名古屋市東区百人町26スクエア百人町1階
訪問調査日	平成23年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりの思いを大切にし、開放的な空間の中で一緒にテレビを観る、話しをし笑い合う、ゆったりと過ごす・・そんな雰囲気作りを大切にしています。
四季に合わせた行事をおこない個別レクリエーションで本人の希望すること（買い物、カラオケ、動物園等）を月に1名づつおこなう。可能な限り、毎日散歩にでかけ棒体操などおこない体力の維持につとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2ユニットのホームで、利用者が昼間リビングでテレビを観ながら、時折会話をしているユニット、居室でのんびり過しているユニットと、ユニットの個性がでている。どちらも職員は利用者と会話をする機会をもち利用者の思いや要望、また不安などを聞いて信頼関係を築いている。その中で職員間でフロアー会議や全体会議などで「どうしたら思いや要望が可能になるだろうか」と話し合い検討し思いや要望に近づく支援に努めている。また、毎日の日課として散歩やラジオ体操、棒体操を行い筋力維持に努めている。職員の月1回の勉強会も定着して今年は外部の勉強会にも参加が増え介護知識力の向上に繋がっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.尊厳・奉仕・思いやりの心を大切にする。2.笑顔あふれる空間を創造する。3.お客様の生活の安心・満足・充実を図る。4.仕事の安心・満足・充実を図る。5.地域間、事業所間の充実を図る。6.経営の安定・拡大を図る。玄関に貼りだし来客にも分かるようにしている。	管理者が理念を年１回職員に説明している。また、新人職員には入社時の研修時に説明して周知している。しかし全職員周知徹底は出来ていない。	日常業務の中でケアサービスが理念と結び付いていない。再度、職員会議などで理念の説明をすることを望んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流は、近所の喫茶店に行く、散歩時の挨拶程度で、ほとんど無く夏の盆踊り大会、学校のバザーに参加するのみ。	地域交流の少ない所だが、散歩などで顔見知りになり声をかけられることが増えた。中学生の職場体験は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解に努めた働きかけを、地域住民を対象には行なっていないが、運営推進会議を通して、認知症についてや介護の不安等についての意見交換は行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者に対するサービスの実際、事業所での取り組み等を報告している。又、今後のサービスが向上できるように意見交換を行うよう努めている。	管理者は運営推進会議の内容として何をしていいのか苦戦しているのが伺える。しかし会議に地域包括支援センター職員の参加が増えたり、家族からの要望には答えて実践している。	運営推進会議は１１月予定を含め３回となっている。是非年６回開催されることを期待する。また、地域の住民代表に参加してもらえるように根気良く声をかけることを望んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスに対しての疑問や相談にも応じていただいているが、事業所の実情やサービスの取り組み等を、積極的に伝えるような取り組みまでは至っていない。	区役所には利用者の介護認定調査の手続きなどに出向くことはある。他に福祉サービスで疑問に思うことや分らないことは電話などで聞いたりして関係を築いている。	市区町村などで開催されている研修や講演に職員が参加してサービスの質の向上に反映することを望んでいる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、建物の構造状、死角があり開放まで実施できていない。又、身体拘束をしないケアは行なっており、申し送り等で意識統一を図っている。ミトン等の使用時は、家族の了承を得ている。	月１回の職員会議やフロアー会議などで、「何が身体拘束なのか」を話し合い周知している。新人職員にはベテラン職員がその都度説明して身体拘束をしないケアサービスに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	互いに意識を持ち、言葉遣いなども配慮した上で声かけをしている。また虐待ではないかと思われる声かけや、行動については個別に注意を呼びかけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ場を設け、どのような仕組みで成り立っているかを知ってもらう。また家族に制度の仕組みなどは、管理者を中心に話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、規程等は分かりやすく分け、契約前に自宅におとずれ、契約内容の説明をおこなう。又、疑問や不安点があれば、随時受け付け相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、訪問時や運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに心掛けている。利用者やご家族に出された意見、要望等は申し送りやミーティング等で話し合い、反映している。	家族からの要望の一例として入浴を同姓介助でして欲しいと声があり、職員は出来るだけ意向に添えるように話し合い検討して改善に向け努力している。様々な要望に対応して結果は管理者から家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会、面談等を通して、意見や提案ができる機会を作っている。又、いつでも話しができるよう問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	月１回の職員会議やフロアー会議など話し合いの機会はあり、そこで管理者が提案された内容を上司に報告しており職場の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるようにしている。又、職員の資格取得に向けた支援も行なっている。管理者は職員の疲労や思い、人間関係等をいつでも、上司に相談・報告でき、会社全体で考える環境ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では定期的な勉強会を行い、スキルアップの場を設けている。又、外部研修の情報を職員に持ちかけ、受講する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との勉強会（食事委員会、教育委員会）を開き、互いの意見交換、勉強の場として提供している。また月１回の西区グループホームの外部勉強会に参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では必ず本人とゆっくり話し時間をとり、これまでの生活状態や求めている事を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めていることや不安なことなどを、ゆっくり聞く時間を作り、事業所ではどのような対応ができるのか、相談に応じている。又、今後の介護計画につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族の思いや状況等を確認し、必要としている支援を提案している。内容によっては他のサービス利用の情報も提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に部屋でゆっくり話す事で、本人の思いや苦しみ、不安を分かち合うことも多く、お互いが相談しやすい環境を作っている。又、利用者から力をいただく事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、日常生活上の変化をご家族に伝え、情報を共有しており、協力関係ができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、入居している方に、友人、知人の面会が少なく、自宅での生活での友人関係がわからず。馴染みの場所は、家族が馴染みの場所に連れていてくれている。	利用者で施設から出向く近隣の喫茶店が馴染みの場所となっている人はいる。他に家族と定期的に入居前の馴染みの理美容院や買い物に出かける人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩などを通じて利用者同士が一緒に過ごす時間が多くある。又、利用者同士の関係がうまくいくように、会話の中に職員が一緒に入り調整役となって支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから継続的な関わりを持つような働きかけはしていないが、契約終了後もご家族から電話をいただいたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の嗜好を聞いたりして、食事の献立として出したりしている。また外出レクリエーションがあり、本人の希望で動物園、買い物ツアーなど行なっている。意思疎通が困難な方でも、表情やしぐさを観察し、理解に努める。	月に1度、外出レクリェーションを1対1で個別に対応しており、その際、思いや意向を把握するよう努めている。言葉で伝えることが困難な場合でも、身体の動きや行動を読み取ることで少しでも本人の思いに近づけるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活暦や生活環境を聞き出し、把握に努めている。趣味（好きな事）など、できるかぎり継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを奪わないよう、利用者のADLに合わせた支援を心がけている。生活活動への自立支援や、役割作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや希望を聞き、反映するように努めている。入浴や食事など、時間や形が決まっている事への要望に応えるのは難しいが、できるかぎり近いものとし、提供できるように努めている。	利用者に身体状況の変化や日常生活で必要性が生じた際は、まず職員で話し合い情報交換や確認を行いながら本人、家族と相談しケアプランへ取り入れている。	職員が達成状況を把握しやすい具体的な短期目標を設定したり、利用者の残存機能を活用した個別援助計画の作成を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目、事柄にわけ、バイタル、食事、日々の様子などを細かく記載し、個別記録として記載している。またモニタリングも同様に観察記録として残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急のご家族との外出や外泊にも臨機応変に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行なっている祭りなどに参加しているが、地域資源をすべてしている訳でない。それ以外で、近所の喫茶店に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、利用者、ご家族希望に応じて対応している。協力病院以外への受診や通院に関して、基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行すいるようにしている。	週に1度、協力医の往診もあり、気軽に相談できる関係もあり、適切な医療が受けられるよう支援している。家族が通院介助が出来ない時は、職員が代行し、それぞれのかかりつけ医との関係も構築できている。また、定期的に訪問マッサージが来て機能低下の予防とコミュニケーションの確保にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を設備しており、24時間体制で健康管理や状態変化等の報告、相談に応じてただける。医療に関する不安や疑問点なども気軽に相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会を行い、利用者の状況把握に努めており、又、ご家族との情報交換を行なっている。退院後の対応や注意点などを相談、話し合える場を作れるよう、担当医師等に働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針の同意をご家族からいただいており、事業所が対応し得るケアについての説明を行なっている。又、本人やご家族の意向を踏まえ、医師と連携をとり、随時連絡が取れるようにしている。	終末期の具体的な支援や方法等、契約時に意向確認書を取り交わしている。職員にも、ターミナルケアについて研修を実施し、重度化への心構えとその後の職員の精神的サポートもされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	アクシデントマニュアルに沿って対応する。又、勉強会で、心肺蘇生術など学んでいる。カンファレンスでは、利用者の状態変化に応じて、対応方法を指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員が対応できるよう努めている。特に夜間の災害時対応は重要なので、定期的に訓練を行う。災害対応マニュアに沿った行動をおこなう。	避難訓練を年２回実施しており、夜間想定訓練では、訓練の内容及び、反省、課題など今後に向けた解決策も検討されている。	今までの訓練に加えて地震や季節など、様々な災害や状況を想定した訓練、それに伴う非常用備蓄品の準備、地域の具体的な協力体制の整備、利用者を安全に避難できる方法や経路の繰り返し訓練などの取り組みを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意思や誇りを損なわないよう、さりげなく声かけやケアをするよう心がけている。声かけや対応等で疑問や意見がある場合は、会議や申し送りを通じて話し合い、ケアの方向性を決めている。	排泄や入浴への対応は、利用者の立場に立ち羞恥心、プライバシーに配慮している。昼食事の職員の言葉かけや見守り等、適切に行われており、利用者の尊厳を大切にしたサービスの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けるような支援をせず、利用者の思いや希望を聞き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや気分に応じて支援ができるよう心がけてはいるが、本人の好きな時に外出支援するなど、人員不足や業務の関係上希望にそえないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替など基本的にできる方には、自己にて洋服を選んで着ていただく。毎月理容師が訪れ、本人の好みに合わせてカットやパーマをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは肉の日・魚の日など決めているが、利用者の好みに合わせたり、季節の食事や行事に合わせて臨機応変に変更している。	好みや栄養に配慮し、旬の食材などを盛り込んだ献立になっており職員が当番制で食事作りを行っている。利用者の心身の状態から食事準備の参加が難しくなっているが、片付け等は、職員とともに行っている。誕生日、行事には、管理者、職員の配慮があり利用者が楽しく食事が出来るような変化を付け食に対する楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録、データとして残し、把握している。水分量などが低下している利用者には嗜好を取り入れたりと工夫している。又、変化があれば往診で相談しており、定期的な血液検査も行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りを行い、出来ない方には毎食後のケアを行なっている。又、週に1回口腔ケアサービスを利用している入居者もおり、口腔状態の確認含め指導をいただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンや失禁状況の把握に努め、トイレの声かけや誘導を行なっている。トイレでの排泄を大切にし、パット類も本人に合わせて検討している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけやトイレ誘導で自立排泄を促し、オムツに頼らない排泄支援をしている。誘導時の声かけも羞恥心に配慮し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるかぎり薬に頼らず自然排便ができるよう、水分量の把握、飲食類の工夫に努めている。又、散歩の他、体を動かす運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週2回以上となっており、1対1の対応を行なっている。入浴ができない日でも、必要に応じて清拭や足浴を行なっている。	利用者の希望や体調に合わせた入浴支援を週3回行っており、リラックスして入浴できるよう支援している。利用者の状況に応じ清拭を行ったり、入浴のない日は、足浴を行うなど清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間心地よくの眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲んでいる薬の内容を個人ごとにカルテに入れており、全職員が把握、確認ができるように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションや日々の動きなどで得意分野を見つけ、お願いできそうな仕事を頼み、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日散歩をするなど、戸外に出るようにしている。普段行けないような場所に行く場合は、事前に下見やスケジュールを作り、当日事故やトラブルがないよう留意している。	日常的に近隣の散歩や喫茶店、買い物等、できるだけ外出機会を多く持ち、外気浴が出来るように心掛けている。毎月１回、個別の外出支援にも取り組み個々の特別な楽しみを大切にしている。季節行事では、花見、お祭りなどに出掛け気分転換や交流も深めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持はご遠慮していただいているが、希望がありご自分で管理できる方に関しては、所持されている。お金の事が原因で不安定になる場合は、職員がうまくフォローし解決している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用も自由にでき、ご家族に対して電話希望があった場合も、事前にご家族と話し合い対応している。年賀状なども希望に応じて出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は、基本、明るい空間を心がけている、又、室内温度や臭いにも留意している。	共用空間は、ゆったりとしており、台所の料理の音や匂いを感じながら落ち着いた空間の中で居心地良く過ごされいる。照明やテレビの音量にも配慮し特に換気には、気を配っている。浴室、トイレ、洗面が一体化しており、利用者の負担軽減や職員が効率的にケアできるよう配慮されている。また、玄関入り口の壁に外出行事の写真などが飾られ、外来者に近況報告している。	利用者が多くの時間を過ごす共用空間に季節感を感じる物が少ない。利用者の居心地のよい場所、安心感のある場所になるよう生活感や季節感がある装飾品等を採り入れ工夫するなど雰囲気作りが出来るよう期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー含め座る所を多く作り、自由に移動して、好きな時に好きな事ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品などを持ってきていただいている。	居室は、利用者が安らぎを得られるよう、使い慣れた馴染みの家具や小物等、利用者それぞれの好みに応じた飾りつけが配慮されている。床寝を希望される利用者にも落ち着いてくつろげるスペースづくりにも配慮し工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手摺の増設などを実施する他、ベットからトイレまで安全に移動できるよう、利用者と相談のし、配置を工夫する。		

様式３(2010.09改)

作成日　平成２３年１１月２日

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2370400877
事業所名	グループホーム浄心の杜

【重点項目への取組状況】

		評価
重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：２）	
	殆ど毎日午前と午後に利用者と職員で近隣の散歩に出かけており、近隣の人と顔馴染みとなり会話する機会は増えている。地域の盆踊りには利用者は全員参加している。地域交流の少ない所だが、中学校の職場体験学習やボランティアの受け入れもあり少しづつではあるが事業所の努力は伺える。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：３）	評価
	運営推進会議はまだ年６回に至っていない。昨年より地域包括支援センター職員の参加がある。会議の中で利用者に音楽を聞かせてほしいと要望があり、何度か挑戦してみたが眠ってしまう人が多いため、棒体操をしながら合唱している。筋力の低下防止や声を出すことで気分転換になり良い結果がでている。	×
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：４）	評価
	区役所の介護保険課に介護認定調査の手続きに出向き福祉に関する疑問に思うことは直接聞いている。また電話などで聞くこともある。いきいき支援センター職員から西区で開催されている認知症研修などに職員の参加を進められており、現在、参加出来る様に検討している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：６）	評価
	月１回家族に利用者の様子を伝える手紙やホーム便りを送っている。家族からの要望には職員間で話し合い検討して改善できるものは改善している。気分転換に外出の要望があったが、月１回の外出レクリェーションでランの館、大須、回転すしなどに出かけている。他に毎日、散歩にでかけるなど改善している。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去１年間に６回以上開催されている。	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	×			

１．外部評価軽減要件

①　別紙４の「１　自己評価及び外部評価」及び「２　目標達成計画」を市町村に提出していること。

②　運営推進会議が、過去１年間に６回以上開催されていること。

③　運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

④　別紙４の「１　自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の２、３、４、６の実践状況（外部評価）が適切であること。

２．外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目２、３、４については１つ以上、外部評価項目６については２つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確　認　事　項
２．事業所と地域のつきあい	（例示） ①　自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ②　地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
３．運営推進会議を活かした取り組み	（例示） ①　運営基準第８５条の規定どおりに運用されている。 ②　運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
４．市町村との連携	（例示） ①　運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ②　市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
６．運営に関する利用者、家族等意見の反映	（例示） ①　家族会を定期的（年２回以上）に開催している。 ②　利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③　家族向けのホーム便り等が定期的（年２回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認

を行う。